犬レプトスピラ症に係る課題について

項目	主な課題
1　診断・届出基準	ペア血清によるMAT、PCR、分離培養等が確定診断に用いられるが、一次診療で完結することは難しい。重症例では治療が優先され、確定前に死亡することもある。疑症例や血清型不明例の取扱いが現場で十分に共有されておらず、実際の発生状況を十分に把握することが難しい。
2　家畜保健衛生所との連携	検査受入れ、疑症届の取扱い、検体提出方法等の対応が地域や担当者により異なる。届出後も注意喚起、追跡調査、獣医師会への情報提供につながらない場合がある。
3　届出対象の血清群・血清型	国内研究では犬の症例においてHebdomadisの関与が報告されているが、現行の届出対象には含まれていない。血清群・血清型不明例や対象外血清群による症例も把握されない。
4　検査体制	小動物臨床では民間検査機関への外注が中心で、血清群・血清型までの検査は費用面も含めて容易でない。検査可能機関や提出方法も分かりにくい。
5　ワクチン	国内で流通する犬用レプトスピラワクチンの対象血清型には、Hebdomadisが含まれていない。地方獣医師会に対する調査では、ワクチン接種済み犬の発症・死亡例に関する報告も寄せられた。
6　発生情報・制度運用	届出対象外例や未確定例が把握されず、地域別・時期別の発生実態が見えにくい。制度の位置付け等が臨床獣医師に分かりにくい。